

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう



山形市PTA連合会ホームページ ymgtcity-pta.com

検索

第42号

令和6年12月発行

発行 山形市PTA連合会

会長 武田靖裕

山形市十日町一丁目6番6号
(県保健福祉センター内)

TEL 023-631-0055

FAX 023-635-4359



山形市立鈴川小学校父母と教師の会
(6学年PTA親子行事 花笠祭り参加)



山形市立みはらしの丘小学校PTA
(ちょボラ活動「子供と一緒に清掃作業」)



山形市立大曽根小学校PTA
(6年あおぞら学年 やまがたSDGs発表会)



山形市立第五中学校PTA
(山形五中PTA親子行事)

《令和6年度山形市PTA連合会スローガン》

『当事者意識を持って一丸となって行動しよう』

～未来を担う子供たちの架け橋になる～

HP:<https://www.ymgtcity-pta.com>

第67回山形市PTA連合会研修大会から 「多様性の時代に対応できる教育、 組織のあり方とは」

実行委員長 山形市立第七中学校PTA会長 國分 亮



令和6年7月7日(日)山形テルサを会場に、山形市内各小中学校より総勢800名近くのPTA会員の皆様方にご参会いただき、第67回山形市PTA連合会研修大会が盛大に開催できましたことに心より深く感謝し、お礼を申し上げます。

今回の研修大会はコロナ禍前に行われていたフルサイズに戻しての通常開催です。大会の中止や規模縮小で失われてしまった時間と情報、および経験値をどこまで復元できるかが大きなポイントとなりました。特にコロナ全盛の中で様々な活動を自粛していた期間は、PTA活動にあまり携わることもなく、今まで積み上げていたものがそこで止まってしまった感じがありました。しかし、今回の研修大会に向けての取り組みで、新たなスタートを切ることができたと思います。

「第七中学校・大郷小学校・明治小学校・出羽小学校」の4つのPTAが、1年前より打ち合わせを幾度となく重ねました。早い段階で、今回の大会主題のキーワードとなる「ウェルビーイング」が出て、私たちのやるべきことが見え、方向性が決まりました。しかし、これまで「ウェルビーイング」は、文字を見たりする機会はあったものの、その言葉が意味することまでは深く理解できていませんでした。そのような状況で、私たちも手探りで準備を進めてきたところでした。

大会主題は、「子供の未来に不可欠な『ウェルビーイング』～だれもが幸福で充実した人生を送るために～」です。時代の移り変わりとともに、これまで通用していた常識が常識ではなくなるという考え方や、生活のスタイルも変わってきました。さまざまな背景・特徴・経験を持つ人々が共存し、お互いの違いを尊重しながら多様な視点や意見を重んじるようになりました。「ウェルビーイング」ということが組織やコミュニティをより創造的、且つ柔軟で強固なものにしていくのではないかと感じています。

未来ある子供たちが多様な意見や視点を持ち、それを取り入れることで新たなアイデアやイノベーションが生まれ、より豊かな社会を築くことができるように、私たち保護者も共に考え成長していくことが重要です。また、PTAも常に最新情報をアップデートできるような体制を構築していくことが、これからのあり方なのかもしれません。今回の研修大会では、「変化を嫌うのではなく、それを楽しむこと」を大切にしながら、試行錯誤の取り組みではありましたが、そこから一つの方向性を導き出し、作り上げることができたのではないかと思います。

最後になりますが今大会において、ご協力いただいた関係各所の皆様、またご参会いただいた保護者の皆様、企画、運営に携わった「チーム第七ブロック」のメンバーに改めて心より感謝申し上げます。



子供の未来に不可欠な『ウェルビーイング』 ～だれもが幸福で充実した人生を送るために～

基調講演

『教育におけるウェルビーイング』

◆ 講師 / 三浦 登志一 氏（山形大学地域教育文化学部教授）



第1分科会

「子供の居場所づくり」

話し合いの ポイント

- 学校・家庭・地域が一体となった「子供の居場所づくり」とは。
- 全ての児童生徒に学びの場を確保するとともに、安心して過ごせる場を校内に増やしていくために私たちができることは。



＜大会アンケートから＞

分科会で参加者から質問を集めてその場で答えるスタイルは臨場感があり、ただ聞いているだけではない感じがして良かったと思います。

第2分科会

「子供の心と体の育ち」

話し合いの ポイント

- 心身の健康的な成長を促す5つのポイントとは。
- 家庭内でできるジェンダー教育とは。
- 家庭内でできる性教育とは。
- 多様な性のあり方への知識とは。



＜大会アンケートから＞

質問時にパネリストの回答をその場で画面に反映させるなど、運営面でも現場スタッフの方の働きぶりを感じられました。



『当事者意識を持って一丸となって行動しよう』 ～未来を担う子供たちの架け橋になる～

山形市PTA連合会 会長 武田 靖 裕



山形市PTA連合会は『当事者意識を持って一丸となって行動しよう』～未来を担う子供たちの架け橋になる～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。令和6年7月7日に、「子供の未来に不可欠な『ウェルビーイング』～だれもが幸福で充実した人生を送るために～」をテーマに、市P連研修大会を開催しました。基調講演では『教育におけるウェルビーイング』について講師の先生の話のを伺うとともに、分科会は第7ブロックで課題と考えていることを取り上げ、分科会担当PTAのカラーを活かした内容で学びや気付きの多い大会でした。

市P連教育懇談会は「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と山形市の部活動地域移行について」をテーマに開催しました。「部活動地域移行」は昨年度に引き続き2回目です。部活動の地域移行は各地域の実情やニーズに合わせて、子供たちにとってさらに充実した環境を整備するものです。そのためにも情報発信や意見交換会等を広く継続して行うことが必要であると感じました。

子供たちを取り巻く環境は大きく変わり、そして今まさに変わりゆく中で子供たちは生活を過ごしています。山形市PTA連合会はあらゆる変化に対応しながら、愛する子供たちの健全な成長と幸福を願い、これからも、大きく変化する教育環境に親としてPTAとして出来ることを求めていると考えています。



「未来に生きる子供たちのために」

山形市教育委員会 教育長 金 沢 智 也



山形市PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日頃より山形市の教育の充実と発展にご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。また、学校内外におきまして、子供たちの豊かな成長と健全育成にご尽力を賜り心より感謝を申し上げます。

さて、山形市教育委員会は、「郷土を誇りに思い いのちが輝く 人づくり」を基本理念とし、様々な施策を展開しております。学校教育では、感動・感謝・信頼をキーワードに掲げ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育む教育を推進し、家庭・学校・地域が連携を深めながら、子供たちの心豊かで健やかな成長と主体性や創造力にあふれる姿を目指しています。

現代においては、情報化社会への急速な進展が子供たちを取り巻く環境にも影響し、教育における情報化推進の取組が求められております。山形市においても、一人1台配備しているタブレット端末へのAI型学習ソフトの導入、電子黒板の導入等に取り組み、未来を生きる山形の子供たちに不可欠な力の育成につなげるべく、学校のICT化を強力に推し進めております。また、市立小中学校に学校運営協議会を設置し、「コミュニティスクール」として地域とともにある学校の実現を目指しております。併せて、学校を核とした地域づくりに向けて、地域と学校の連携・協働による「地域学校協働活動」を実施しています。コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、未来を担う子供たちの健やかな成長を支えてまいります。

山形市PTA連合会及び保護者の皆様方におかれましても、様々な場面でご活躍いただくとともに、山形市の教育に対する変わらぬご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度山形市PTA連合会小中学校部会 「持続可能なPTA活動を目指して」

山形市PTA連合会 中学校部会長 柴田 賢一

令和6年6月26日(水)、江南公民館講堂で市P連小中学校部会を行いました。昨年度の小中学校部会のテーマは「持続可能なPTA活動を目指して」でした。各PTAでも様々な課題があり、市内各小中学校PTAの課題や実践を共有することができました。今年度のテーマも「持続可能なPTA活動を目指して」とし、各校のPTA会長で課題や実践について情報交換をし、実情に合った「持続可能なPTA活動の構築」を目指したいと考え、小中部会を開催しました。

初めに、鈴木真一氏(市P連第22代会長・県P連第25代会長)より「PTA活動に期待するもの」についての講話があり、その後、グループ毎の話し合いを行いました。視点は「各PTAの事例紹介、抱えている課題、取り組んでいること、構想等」で、各グループにおいて活発な話し合いが行われました。

感想に「本日は貴重な講話ありがとうございました。各学校とも課題はたくさんあるように感じました。なくすのは簡単ですが、持続することの大切さや持続させる上での工夫したことなど、たくさんの学びがありました。役員になったら役目を果たし、楽しかったと思ってもらえること達成感を持ってもらうこと、そんなPTAにしていきたいと思いました。自らの成長につながる活動であると信じて頑張っていきたいと思います。」

「他の学校の特色ある活動を具体的に知ることができて勉強になりました。今日の研修会で自校の課題や目標が見えてきたと思います。今日学んだことを本校のPTAで横に展開して、多くの保護者と共有したいと思いました。」とあり、単位PTA同士の情報交換やつながりの大切さを改めて感じた小中部会となりました。

今後とも引き続き、本小中部会、ひいては山形市PTA連合会に対しまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



実践 報告

『当事者意識を持って』 ～未来を担う子供たち～

鈴川小学校創立150周年

山形市立鈴川小学校父母と教師の会会長 狩野 慎一郎

私たち鈴川小学校は、創立150周年を迎えました。今年度のPTA活動は、各委員会が通常の事業に加えて、創立150周年の記念事業を分担し活動しております。

記念事業の中で、「記念式典・祝賀会」はPTAの委員会でご担当いただき、令和6年11月1日に無事に終わることができました。また、「記念誌」につきましてもPTAの委員会から担当いただき制作中です。各委員会の活動についても、コロナ前のPTA活動に完全に戻すことができなかった昨年度から「こどもの見守り活動」を強化し、今年度も活動しております。内容としては、月初めの登校日に、通学路の中で交通量が多い道路・交差点や見通しが悪いポイントを吟味し、各エリアを担当分けて朝夕の登校時間に合わせて挨拶・注意喚起を行っています。

また、学年行事については、まだコロナ前のように全学年の開催には至っていませんが、6年生だけが継続して「花笠まつりへの参加」を行っています。保護者の皆様からも練習に参加いただき、当日は裏方としてサポートしていただく方も多数おりました。

これからの各委員会のPTA活動と学年行事については、コロナ禍を経験し、それが明けた今からの新しい活動の在り方をもう一度作っていく必要があると考えます。今年度はPTAの各委員会のご負担が大きく、残念ながら新しいことを作っていくことが難しい年でした。150周年の節目を迎え、PTAの体制・各委員会事業の再構築について十分に考え、家庭・学校・地域がこれまで以上に強く連携を深めるために、これから気持ちも新たに1歩を踏み出す必要があると考えます。

できる人が、できる時に、できる範囲で

山形市立みはらしの丘小学校PTA会長 野中 徳幸

みはらしの丘小学校は「蔵王に抱かれた美しいまち」をまちづくりの目標として造成がされた山形ニュータウン「蔵王みはらしの丘」に平成18年4月、山形市内37校目の小学校として開校いたしました。今年度の本校PTAの活動方針は「できる人が、できる時に、できる範囲で」となっております。私自身、PTA活動に参加して8年目になりますが、時代の変化や考え方の変化、コロナなどさまざまな事があり、PTA活動や組織自体が今の時代に合っていないのではないかと常々考えていました。本来ならば、PTA役員は子供たちが楽しみにしている行事や、一生懸命に練習を重ね、保護者に成果を見てもらう学習発表会などを準備の段階から携われる贅沢で羨ましがられる組織でなければならぬのですが、時代の変化や労働環境労働意識、各ご家庭での家族との過ごし方などの変化もありPTA自体が負担になっているという声も聞こえてきました。また、先生たちの日頃のお忙しい業務にプラスしてのPTA活動へのご協力、ご自身のご家族の時間を犠牲にしての行事参加など、働き方改革の観点からも改善を行ったほうが良いとの判断に至りました。

前年度に組織改革に関するアンケートをとり、組織改革賛成が96%以上となりその結果が背中を押し、前会長、三役、校長先生はじめ教員の皆様と一年かけて組織の大幅な見直しを行いました。組織改革の主な中身ですが、専門部の廃止、学年委員長の廃止、ボランティアの活用、年間行事の規模や時期、内容の精査を行い60名ほどの役員数を各学年2名の12名に削減いたしました。大胆な組織改革で前例のない中でのPTA活動ですが、次年度につなげられる、存続できる、存続させられる、他校に羨ましがれる組織を目指しています。

『一丸となって行動しよう』

ちの架け橋になる～

地域と共に育つ

山形市立大曽根小学校PTA会長 佐藤 弘樹

大曽根小学校は山形市西部に位置し、市内を一望できるのどかな場所にあります。秋には児童が育てた里芋の収穫、それを使った敬老芋煮会でテレビ取材が入り、ニュースで流れるので知っている方もいるかもしれません。

今年度の大曽根小学校では、二つの新たな取り組みを実施しました。一つ目は保護者PTA活動のボランティア化です。学校環境整備や運動会準備などを強制参加ではなく、事前にボランティアを募り実施しました。当初、不安も多かったですが、多くの保護者の方に協力して頂き、活動を実施する事ができました。今年度の市P連スローガンにもある「当事者意識を持って一丸となって行動」を体現できたと思います。二つ目は、「大曽根文化のまつり」への参加です。クラブ活動の授業で行っている「大曽根太鼓クラブ」と「大曽根民話クラブ」の発表を、保護者だけではなく大曽根地区の皆さんの前で行いました。大曽根小学校では地域との関りを大切にしています。日頃の授業の中でも地域の方に教えて頂く事が多いです。今回は日頃の感謝の気持ちを込め、皆さんの前で発表しました。多くの方にまつりが盛り上がったと言って頂き、実施して良かったと思います。

大曽根小学校は大きな学校ではありませんが、その分、保護者・先生・地域の方との繋がりを感じる事ができる、協力しあえる学校です。これからも魅力ある学校生活をつくるため、皆さんと共にPTA活動を行っていきます。



持続可能なPTA活動に向けて

山形市立第五中学校PTA会長 伊藤 めいこ

山形市立第五中学校は旧山形市の中央および北部地区に位置し、本年11月1日で創立73周年を迎えました。山三小・山四小・山七小・山九小の4校により構成され、学区は山形市の行政・報道・金融の中心地であると共に、県立図書館や歴史の長い高校が複数存在する教育施設の充実した地域となっています。本校の教育目標は「五中生らしく、自立し、誠実に生きる生徒を育成する」です。コロナ禍を経て、人と人とのつながりの重要性を再認識した今だからこそ、「受け止める力」「伝える力」「かかわる力」を持つ生徒の育成に取り組んでおります。

本年度、本校の生徒数は510名です。しかし、これまで各学年6クラス編成でしたが、今年度の一年生は4クラス編成となり、生徒数の減少をまざまざと見せつけられました。クラス数の減少は、クラスから選出される役員数の減少に直結します。このため、本年度、各専門部（広報部・文化部・保体部・母親委員会）の部長・委員長を中心に、これまでの活動を再検討することにいたしました。その結果をもとに、来年度以降、生徒数・役員数の減少にも耐えうる、持続可能な形に再編成する予定であります。

昨今、PTA活動の是非について様々な議論があることも承知しておりますが、親同士の健全なつながりは、子供たちの安心で安全な学校生活の基本です。その土台となる本校PTA活動が、今後も安定的に継続することの重要性を鑑み、保護者の役員選出の負担や教職員の働き方改革を考慮した、今の時代に即した山形市立第五中学校PTAの構築を目指していきたいと思っております。そして、これからも変わらず、子供たちのための活動を続けていけるように努めてまいります。

令和6年度山形市PTA連合会教育懇談会 —— 報 告 ——

山形市PTA連合会 研修委員長 長谷川 吉之介

テーマ：「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と 山形市の部活動地域移行について」

令和6年9月27日（金）、山形市PTA連合会教育懇談会を実施しました。当日は、金沢教育長をはじめ市教育委員会と部活動地域移行連携室の皆様、各学校のPTA会長、市P連母親委員会委員長、副委員長、運営委員の皆様よりご参加をいただきました。

休日の部活動の段階的な地域移行が始まりましたが、学校の教育現場で部活動に取り組む「生徒」と、それをささえる「教員」「学校」「家庭」「地域」が抱えるさまざまな課題があります。山形市でも部活動地域移行を担当する部署が設置されました。初めに、スポーツ庁の「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の説明とスポーツ庁室伏長官のメッセージ動画を視聴し、次に、山形市文化スポーツ部部活動地域移行連携室コーディネーターの佐藤雄一氏より、「山形市の部活動地域移行・令和6年度の取組みについて」を説明していただきました。それを受けて、グループごと自己紹介の後、①各校・各地区の部活動の課題と地域移行について、②「部活動の地域移行について」の保護者や地域としてできることについて、トークリーダーを中心に話し合いを行いました。



「部活動の地域移行について分からないことが多い、市から今後の計画やビジョンについて保護者にもっと広くアナウンスをしてほしい。」「小学校に対して中学校の情報がもっと欲しいと思います。各校ごと事情が異なるので、エリアごとにまとめたり、各協会のコーディネートがあればいいと思います。」「中学校の指導者、クラブ設立を考えている指導者、小学生、小学生の保護者などその現場ではなかなか詳しい情報が入ってきません。それぞれの立場への説明する場が早急に必要だと思います。」等の意見がありました。

参加者の感想には、「来年、中学校に上がる子供を持つ保護者です。周りから〇〇年から部活動がなくなるとか、〇〇年から必ずクラブチームに入らないといけない、などと間違った情報が結構伝わっています。『部活はなくなりません！』というコーディネーターの言葉で少し安心しました。」「初めて知る内容が多かったのですが、皆さんの意見を伺い、少しずつ問題や現状をとらえることができたと思います。」「まだまだ部活動地域移行がはっきり見えていません。子供にどう伝えたらいいのか、親の心構えも分かりません。送迎の件、お金の面、子供が満足して活動ができるのか不安なことばかりです。」等がありました。

家庭の負担増、指導の過熱化、任意加入制による生徒同士の関係性等の予想される課題が多くあります。部活動の地域移行は、各地域の実情やニーズに合わせて、子供たちにとってさらに充実した環境を整備するものです。そのためにも情報発信や意見交換会等を、広く継続して行うことが必要であると感じました。ご指導いただいた市教育委員会と部活動地域移行連携室の皆様、熱心に話し合いをしていただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。





いのちの大切さ学習会

「子どもを犯罪から守るために」 ～少年の非行及び被害の現状から～

山形市PTA連合会主催の「いのちの大切さ学習会」(母親委員会共催)が、令和6年11月4日、山形国際交流プラザ(ビッグウイング)に於いて開催されました。講師は、山形県警察本部生活安全部人身安全少年課少年サポートセンター調査官の小林智佳子氏です。少年非行や被害の現状について、「最新の情報」や「具体的な対策」等のお話を伺いました。

(感想から)「どこかで自分の子は犯罪に巻き込まれない、大丈夫と思い込んでいる部分が多いということに改めて気づかされました。こんなにも犯罪が身近に迫っていることを知ることができて良かったと思います。子供のネットとの付き合い方は今も頭を悩ませているところです。私自身がネットに疎く、むしろ子供の方が詳しいという状況で親がどうやって守っていけるのかということが自分の中で大きな課題となりました。」

『正しく怖がり 賢く使う』という言葉聞いて、今まで漠然とネットは子供にとって怖いものというイメージから遠ざけていましたが、18歳までの短い期間に少しずつ正しい関わり方を一緒に考えていくことが必要なのだなと思いました。そして親のスマホ依存の話にもハッとさせられました。自分のネットに対する関わりも見直していきたいと思います。」



第76回山形県PTA研修大会 鶴岡・東田川大会に参加して

山形市立第十中学校PTA会長 金澤忠治

令和6年10月19日(土)、荘銀タクト鶴岡にて、第76回山形県PTA研修会鶴岡・東田川大会が開催されました。本大会は「育てよう 未来を生き抜く 子どもたち～家庭・学校・地域で育む『夢』と『自律』～」の大会主題のもと、私たちPTAが今後、子供たちが輝かしく成長するため、また未来の山形を担う子供たちのため、PTA一丸となって様々な課題に取り組むことを再確認した大会でありました。

記念講演では横浜創英中学・高等学校前校長の工藤勇一氏を講師にお迎えし、「子どもに生きる力をつけるためにできること～子育ての大切な2つの目標とは～」をテーマに講演をいただきました。工藤氏は従来の教育課程を見直し、宿題や中間・期末テスト・学級担任制を廃止するなど、今までの『当たり前』をやめ、自律性をもった当事者意識を育む学校改革を行ってきました。

今回の講演の中で自己決定を促す3つの言葉として、「どうしたの?」「きみはどうしたいの?」「何を支援してほしいの?」、常に子供に自己決定の機会を与えていくと自己肯定感が高まり、自ずと自信と自主性が付いてくるなど、子供との向き合い方について講演をいただきました。私たち保護者も『当たり前』だった教育について、再考させられた貴重な時間となりました。



第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会に参加して 「すべては子供たちの笑顔のために」

山形市立高瀬小学校PTA会長 安孫子 健治

令和6年9月7日から8日にかけて、青森市と平内町を会場に開催された第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会に参加してきました。初日は、5つの分科会と特別分科会が開催され、私は「マルチスポーツの可能性と運動部活動地域移行について」をテーマにした、青森山田高校で行われた第4分科会に参加しました。この分科会では、3歳から7歳までの時期については、さまざまな運動パターンを習得する時期であることから、さまざまな運動に触れて体の動かし方を学ぶことが大切で、このことが競技スポーツなどにも役立つことや、部活動の地域移行については、地域にあるものを活かし地域と連携していくことが重要であることなどを学びました。2日目は、開会行事と表彰式、記念討論会が行われたほか、地元の子供たちによる荒馬踊りや太鼓の演奏、青森ねぶた囃子や弘前ねぶた囃子の披露などのアトラクションがありました。

近年、PTAを取り巻く状況が厳しくなっていく中でも、その必要性を訴えながら、子供たちが笑顔になれるとともに自らが成長できるような活動を目指して頑張っている多くの仲間がいることを、この研究大会を通して知ることができて心強く感じました。今後は、研究大会で学んできたことを活かしながら、より良いPTA活動となるよう取り組んでいきたいと思います。



日本PTA全国研究大会川崎大会から

山形市PTA連合会 研修委員長 長谷川 吉之介

令和6年8月23日・24日に「第72回日本PTA全国研究大会川崎大会」が開催され、全国より延べ6,000名の参加者が集まりました。県内から28名(山形市から9名)の会員が参加しました。

大会スローガンは「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～」でした。参加者が一つの会場に集い、各セッション・基調講演・記念講演では、各領域の研究課題にふさわしい提言者の方々から、今後のPTA活動に役立つ情報提供や問題提起がありました。また、参加者がグループをつくり、各セッションにおいて意見交換の時間があり、「縁」を深めることができました。

大会最終日には、この二日間の学びから、明日から自分がやってみたい事、他の人に伝えたい事などの「個人宣言」を行い、ウェルビーイングの実現を目指してアクションプランを宣言することができました。人と人の「縁」を体感しながら多くの学び、会員同士の連携を深め合うことができた二日間でした。



第49回山形市PTA連合会ソフトボール大会

山形市PTA連合会 交流委員長 安達和弘

令和6年10月27日(日)、山形市PTA連合会ソフトボール大会が開催されました。今年でこの大会も49回目になります。今年度は22チームのエントリーでそのうち4チームが合同チームとなりました。各学校参加者の集まらない中、合同チームの形で大会に参加していただきありがとうございました。試合は、ビギナーチームには優しい対応で、ミスしても暖かい声援で溢れ楽しい雰囲気が進んでいました。決勝戦では熱気みなぎるムード！好プレー続出で打てば大谷翔平を思わせるような大ホームランも飛び交い、歓声や拍手が沸き起こり盛り上がった大会となりました。近年は、コロナやPTA行事の縮小など保護者の交流が減少しておりますが、大会を通じ保護者の方々の楽しい姿を見ることで私自身楽しく幸せな気持ちになりました。来年度は区切りの50回目を迎えます。今年度以上の楽しい大会になることを期待したいと思います。



| ブロック名 | 優勝 | 準優勝 | 第3位 | |
|-------|-------|---------------------------|------------------|------|
| Aブロック | 桜田小 | 出羽小 | 蔵王第一中 | 大郷小 |
| Bブロック | 蔵王第一小 | 南山形小・みはらしの丘小・第九中 合同チーム | 金井小・金井中 合同チーム | 第六小 |
| Cブロック | 附属小 | 第九小 | 東小 | 南沼原小 |



令和6年度 山形市PTA連合会 母親委員会

山形市PTA連合会 母親委員長 高橋あゆみ

テーマ：「いのちの尊さ大切さ」～かかわる喜び つなげる笑顔～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会(5/9)……………今年度の活動計画と情報交換会
- ・第2回母親委員会(6/20)……………ワールドカフェ(8個のトークテーマに分かれて)
- ・第3回母親委員会(2/中旬)……………今年度の活動反省と情報交換会

○教育懇談会(9/27)……………山形市教育委員会・山形市PTA連合会・母親委員会(運営委員)

○拡大母親委員会(11/4)……………講演：「子どもを犯罪から守るために～少年の非行及び被害の現状から～」 講師：小林 智佳子氏 (山形県警察本部生活安全部人身安全少年課少年サポートセンター調査官)

○「親学」家庭教育視察研修(11/27)……………山形市立図書館と山形市立商業高等学校

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」 No.29 3月発行

母親委員会の活動にご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、単位PTAにおかれましても活発に活動していただき感謝申し上げます。市PTA連母親委員会では「保護者同士のつながりが重要」と考え、各学校の母親委員代表の方々にお集まりいただく年3回の定例会では情報交換に重点を置いています。現在の子供たちの様子や悩みについて話し合い、そこで出た課題や要望の中から様々な活動に繋げてまいりました。また中学校区の小学校・中学校の母親委員会が繋がるよう「きっかけ作り」もしております。

全国的には女性PTA会長の割合が増え、母親委員会という組織自体が必要では無くなった地域もあると聞きます。しかし山形では多くの学校でお父さんがPTA会長を担ってくださっています。お父さん方が積極的に子供たちの育ちに参加して下さることはとても心強いことですが、一方でお母さん方の意見や想いを発信できる場はまだ少ない状況です。

母親委員会は「子供たちの一番身近な存在である“お母さんの想い”」をもとに、お母さんだから・女性だからこそ気づく問題点・課題を広く吸い上げ、集約し、発信していく貴重な場でもあります。

子育てにかかわるすべての方々と「子供たちのために何ができるか」を共に考え、手をたずさえながら、これからもより良い子供たちの育ちのための活動に繋げてまいります。

晴れの受賞おめでとうございます

(山形市PTA関係、敬称略)

☆山形県PTA連合会会長表彰

- (感謝状) ・佐藤昌彦(山形県P連前理事)
 (表彰状) ・前田浩一(山形市P連前副会長) ・兼子佳子(山形市P連前副会長)
 ・野口雅弘(山形市P連研修大会前実行委員長)

☆広報紙コンクール山形県PTA会長賞

- ・山形市立東小学校PTA「ひがし」 ・山形市立南小学校PTA「わかたけ」

☆山形市PTA連合会会長表彰

- (感謝状) ・前田浩一(前副会長 十中) ・高橋 愛(前理事 明治小)
 ・兼子佳子(前副会長 南小) ・高橋啓博(前理事 大曾根小)
 ・鈴木伸治(前副会長 鈴川小) ・並河英紀(前理事 みはらしの丘小)
 ・丹羽英樹(前副会長 三中) ・浅野和宏(前理事 附属中)
 ・川崎博人(前理事 西小) ・柏倉裕司(前理事 一中)
 ・石澤宏一朗(前理事 一小) ・近藤恵一(前理事 金井中)
 ・武田新世(前理事 鈴川小) ・山口 徹(前監事 桜田小)
 ・遠藤哲也(前理事 四小) ・樋口彰史(前監事 楯山小)

◆◆◆ 令和6年度 山形市PTA連合会役員名簿 ◆◆◆

| 役職名 | 氏名 | 所属PTA |
|--------|--------|-------|
| 会長 | 武田靖裕 | 四中 |
| 副会長 | 長谷川吉之介 | 附属中 |
| 副会長 | 松井 愛 | 大郷小 |
| 副会長 | 安達和弘 | 村木沢小 |
| 副会長(T) | 沼澤 聡 | 南山形小 |
| 副会長(T) | 佐藤朋子 | 五中 |
| 理事 | 荒井信子 | 九小 |
| 理事 | 行方梨沙 | 宮浦小 |
| 理事 | 武田信之 | 二小 |
| 理事 | 安達栄治 | 千歳小 |
| 理事 | 山崎篤史 | 南山形小 |

| 役職名 | 氏名 | 所属PTA |
|------|-------|-------|
| 理事 | 堺 真一 | 金井小 |
| 理事 | 柴田賢一 | 六中 |
| 理事 | 池田英明 | 一中 |
| 理事 | 金澤忠治 | 十中 |
| 理事 | 吉村和武 | 附属中 |
| 理事 | 高橋あゆみ | 一中 |
| 監事 | 安孫子健治 | 高瀬小 |
| 監事 | 中根年勝 | 蔵王二小 |
| 事務局長 | 大江昌信 | |
| 事務局員 | 高見佳澄 | |
| 事務局員 | 佐藤静子 | |

編集後記

子供たちが安心して成長できる環境を作っていくために、保護者同士がつながり、様々な学びを深めている私たちの活動を広く周知したいとの思いで、今号では、各種研修会に参加した委員による報告を充実させました。役員の負担などを理由に敬遠されがちなPTA活動ではありますが、保護者同士のつながりや様々な研修の機会を通して、子供たちと共に保護者自身も成長できることが最大のメリットだと感じております。今号は、研修会に参加した委員から、知的好奇心が刺激されるような生き生きとしたご寄稿をいただきました。心から感謝いたします。PTAも時代に合わせた変化が求められています。これからも、持続可能な活動の形を模索しながら、子供たちを支える活動を皆さんと共に進めていきたいと思っております。

(広報委員長 松井 愛)

